

高松市公の施設指定管理者導入施設に対する評価

評価対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

施設名	純愛の聖地庵治・観光交流館		
指定管理者	特定非営利活動法人はじめの一步	施設所管課等	観光交流課
指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日(5年間)	公募・非公募の別	公募
所在地	高松市庵治町5824番地4	業務の概要	施設の維持管理・運営業務 ・写真館(管理棟)カフェコーナー ・物産館(観光案内コーナー、映画写真展示コーナー) ・企画展示コーナー ・駐車場
施設の概要	【施設】 木造2階建及び木造平家建一部中2階 【職員の状況】 パート3名 【開館時間】 9:00～17:00 毎週火曜日は休館		

	項目名	平成29年度	平成28年度	項目名	平成29年度	平成28年度
利用状況等	利用者数	18,507 人	19,297 人			
収支状況等	指定管理料	4,724 千円	4,797 千円		千円	千円
	収入実績(売上)	4,586 千円	5,452 千円		千円	千円
	支出実績(総額)	10,035 千円	11,442 千円		千円	千円

評価基準	評価項目	指定管理者自己評価コメント	所管課等評価
2 住民の平等な利用確保	①管理運営、施設事業との関連性 ②平等な利用の確保	施設の管理運営スタッフはパート雇用で全スタッフが常勤でない事で意思疎通、決定事項の共有等に支障が出ないように、積極的に情報の共有を図っている。施設の平等な利用の確保にあたっては、申込順を原則として施設利用申し込みに対応している。	B
3 施設の効用の最大限の発揮	①利用促進対策 ②広報・PR対策 ③企画事業・自主事業 ④市・関係団体・地域等との連携 ⑤サービス向上の取組 ⑥相談・苦情への対応	隣接するJA香川庵治支所の協力を得て日祝祭日等、来館者が多いと予測される時の駐車場を確保している。地域資源、観光名所等の名称を取り入れたメニュー開発を進め特産品、観光、地域情報を同時に発信している。プレスリリースについても積極的に行っている。自主事業の「だるま朝日の昇る街、庵治町写真コンテスト」の認知度も上がり賑わいで庵治町の魅力発信に努めている。庵治石のPRの為、庵治石体験教室を開いたり、出前講座にも積極的に参加している。庵治コミュニティ協議会の地域振興会に所属し、企画委員として参加しており高松ファミリー&クォーターマラソンINAJIでは実行委員として準備や当日運営に参加している。また、住民からの相談、苦情の窓口は館長が担当している。休館日や営業時間外でも対応できるよう携帯電話は繋がるようにしている。近年は外国からの観光客も増えたので、翻訳アプリを導入することにより、コミュニケーションがスムーズに取りやすい環境に努めている。	B
4 管理を安定して行うための人員及び財政基盤の確保	①職員確保計画等 ②教育・研修 ③就業規則等の遵守 ④施設運営の健全性の確保 ⑤損害保険等 ⑥収支計画と執行管理	スタッフの働きやすい環境づくりに気を配っている。子供の急病等、緊急時にもシフト交代等の措置を迅速に対応している。また、勤務時間帯、シフトを随時見直し最適な勤務体制を構築できるよう努力した。スタッフ教育の一環として、接客マナーの講師を招き、セミナーを開催した。随時行っているミーティングで新メニューの試作開発等、情報を共有する様務めた。必要な損害保険には加入済みでありイベント毎にも臨時に加入する等の対応をしている。施設経費の執行については、小口現金を用意する事で執行の迅速化を図りながら、レシート等との照合を適時行い厳正に管理している。	B
5 管理に係る経費の縮減	①収入の確保・適正な人件費 ②運営経費の節減対策・コミュニティビジネスの視点 ③経営の効率化 ④合理的な会計制度	ボランティアの方々には、広報活動や買い物など協力して頂き人件費の削減に努めている。一方で長年勤務してくれるスタッフは施設の大きな戦力になるので能力に見合った給与も大切である。来館者、売上は微減であったが、今後も収支のバランスを適正に保つ様努力する。省エネを徹底し、電気使用量やゴミの減量化に努めた。会計制度については、諸規則・諸基準に基づき適正に実施しているが労務管理等を的確にする為に有能と判断した会計事務所に会計管理を委託し、毎月会計事務所のスタッフと打ち合わせをし合理的な仕組みを相談している。	B

総合評価コメント	総合評価
施設の管理条例や各種のマニュアルを遵守し、安全管理など、施設管理は適切に行われている。また、個人情報保護については、「高松市個人情報保護条例」に基づいて守秘義務の徹底を図っているほか、「高松市環境方針」に基づき、職員に廃棄物の減量と分別を徹底させるなど、環境配慮活動と経費削減への意識啓発を図ることや、自主的に防災避難訓練を行うなど、一人一人が高い意識を持って危機管理運営に取り組んでいる点は評価できる。収支決算状況については、収入実績、利用者数ともに前年度を下回る実績となっており、事業収入の増加及び経費削減に努めていただきたい。今後も継続して、利用者ニーズの把握を積極的に行い、新商品の開発を行う等の工夫した施設運営に取り組み、利用者客の新規開拓やサービス向上に努力を重ねていただきたい。	B